



# れんけい だより



## 年頭のごあいさつ



院長  
禰 公平

明けましておめでとうございます。診療所の先生方には常日頃、当院へご厚情をいただき本当にありがとうございます。

昨年は何といても東日本大震災や、それに続く福島原子力発電所での燃料のメルトダウンによる放射能被害が世界を震撼させました。海外においては、

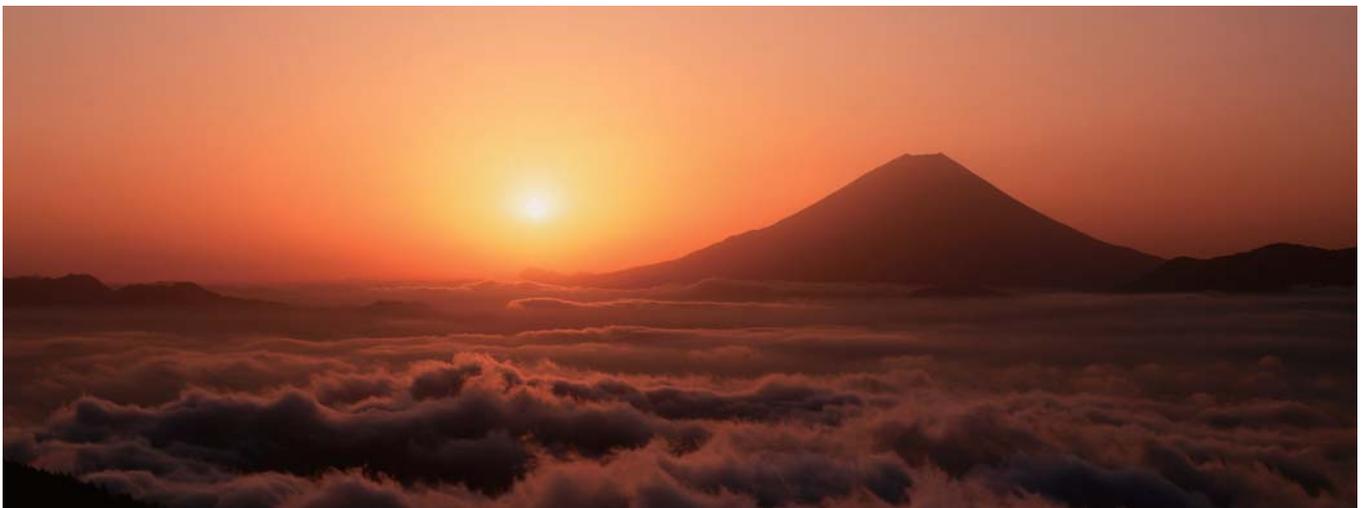
イスラム諸国での政権交代、ギリシャやイタリア等ヨーロッパでの国が破綻しそうな景気低迷があげられ、我が国にも影響を及ぼしそうです。日本経済も悪化の道を辿っているようですし、医療に関しても今後急速に進む少子高齢化や医療の高度化・複雑化の中で、増え続ける医療費をどうまかなうのか、国はきちんとした展望を示すことができないような有様で、果たしてどうなるのでしょうか。

さて、昨年は診療所の先生方に毎月1500を越える多くの御紹介をしていただき、まことにありがとうございました。当院としては救急医療やがん診療等、急性期病院として展開していく上で、医療連携の必要性を

地域に働きかけねばならないと考え、地域懇談会と称して公民館等に出かけていき、地域の方々に医療や当院の現状と問題点をお話しするとともに、かかりつけ医を作ってくださいとお願いする会を昨年から開始しております。また、今年は地域医療支援病院として、病病、病診連携のIT化を進めようと考えています。

平成19年に始まりました新病院建設は6年目に入り、現在6階建ての低層棟の骨格ができあがり、内部の工事が進んでいます。本年4月には完成、引き渡しを受け、6月に移転し、新棟での外来診療を開始する予定です。その後また1年かけて本館を壊し、その跡を公開空地と称する広場とし、平成25年4月頃完全竣工となります。先生方から多額のご寄付をいただき、ようやくここまでこぎつけることができました。心より感謝申し上げます。なお、駐車場の件では皆様方にご迷惑をおかけしておりますが、こればかりは資金や土地の問題もあって直ちに変更はできかねます。お許し下さい。

少し明るい兆しとして、今年は単独型の研修医が9人来てくれることになりました。県内では最も多い数です。若い力も加えて、当院の医療の質を上げるべく、努力を続けたいと思っております。今年も何卒宜しくお願い申し上げます。



# 「がん地域連携パス」の運用状況

医療社会事業部部長 中岡 光生



がん診療連携検討会 乳がんチーム 第1回 勉強会

がん対策基本法に基づいて、診療連携拠点病院の指定要件が見直しされ、5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん）のがん地域連携クリニカルパス（以下がん連携パス）の整備が求められました。がん連携パス運用は、がん診療連携拠点病院の指定要件に加わり、平成23年4月より運用が開始になりました。

松江医療圏域では、平成22年7月に松江圏域がん診療連携拠点病院（松江市立病院と当院）が共同し開催した「がん地域連携パスフォーラム」を機会に、松江圏域がん対策推進協議会を設立。がん診療連携検討会の下に5大がんのチームを形成し、がん連携パスの書式を検討し、運用を開始しました。

松江医療圏域で使用する連携パスの書類は、「医療者用共同診療計画書」「私のカルテ」「診療情報提供書・経過報告書」です。「医療者用共同診療計画書」に基

づいて、治療した基幹病院とかかりつけ医で協力して経過を診て行きます。その際、従来通りの「診療情報提供書・経過報告書」で情報共有を行います。今までと違うのは、患者さんが「私のカルテ」を持つことです。「私のカルテ」は、患者さんも自分の主治医となり、自らの身体状態に目を向けてもらうセルフケアの啓発と、医療者側には、経過を知る問診票の役割も果たします。

連携パスは、医療機能に応じた医療機関の役割分担と情報共有で、がん医療の質の保証と安全の確保を図ることを目標に運用される連携ツールです。現在、当院の5大がん登録医療機関は、69施設です。連携パスは、乳がん23例、胃がん2例、大腸がん3例、肝臓がん2例、肺がん3例が運用中です。

今後地域連携クリニカルパスを稼働させるために個々の患者さんごとに、連携にかかわる関係者間の調整を円滑にする役割が必要と考えます。当院は、連携を更に発展させるために、地域連携課の看護師を「連携コーディネーター」として配置しました。医療者と患者の双方をサポート・患者と医療者の通訳・患者の代弁者・医療連携の質と安心安全と連携パスの実働を保証する存在として、活用して頂ければと思います。

今後、現実に即さないケースなど種々の問題が生じてくると思われます。定期的な見直しを行い、連携されるかかりつけ医の先生方のご意見をいただき、良いものに育てていきたいと思っています。

## パス学会で発表してきました

去る12月9日、10日に日本クリニカルパス学会で「乳がん地域連携パスのコーディネーター活動報告」について発表してきました。

ポスターの学術賞候補になりましたが、残念ながら入賞はできませんでした。しかし、このように発表させていただけたのも連携医の先生・スタッフの皆さんのおかげと感謝しております。

右の写真は、学会の懇親会で来賓の日野原重明先生と当院スタッフとの写真です。（記念撮影に周囲の他施設の方も勢揃いとなりました）



## 地域医療従事者スキルアップセミナー開催 ～まだまだよくなる脳卒中後遺症～

こんにちは、リハビリテーション課の石橋です。

第5回地域医療従事者スキルアップセミナー「まだまだよくなる脳卒中後遺症」が開催されました。

当日は病院勤務の看護師、介護士、地域の開業医の先生、ケアマネージャー、リハビリテーションスタッフと幅広い職種の方、院内外を合わせて92名に参加していただきました。

講演では神経内科副部長・福田弘毅先生の「脳卒中について」、5東看護係長・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師・宇山真弓係長の「廃用症候群を作らないために～起きてみよう・座ってみよう～」、リハビリテーション科言語聴覚士・野津有希さんの「失語症の人と話そう～パートナーになるためのちょっとした工夫～」と盛りだくさんの内容でした。

わたしも「はりあいのある生活を送るための工夫」と題して、脳卒中後遺症のかたの日常生活の工夫、とくに目に見えにくい障害である高次脳機能障害の方に対する対応の工夫やコツ、自宅での役割、地域での交流についての話をさせていただきました。

会場からの質問もあり、このような会を持つことで地域のスタッフ同士が交流し在宅での脳卒中後遺症の方の生活の援助に向けても共通理解ができるのではないかと思います。

脳卒中後遺症の方を支えていく家族、医療従事者はその方の障害を含めて理解し、その人らしい生活を再構築するきっかけを作り、障害をもった後もその方と家族がはりあいのある生活を送れるようになっていくと良いと思います。

このような発表の機会をいただき、大勢の方に伝えることの大変さとともに、改めて脳卒中後遺症の方の自宅での生活や退院後の楽しみ、役割について考えることができました。今後の自分自身の臨床での活動に生かしていきたいと思います。



## ピンクリボン運動イン松江水燈路

10月9日(日)、松江城二の丸を会場に開催した「ピンクリボン運動イン松江水燈路」。全国夜神楽フェスティバルでの神楽の上演、手作り行灯展などもあり、多くの家族連れや観光客の来場により、賑やかに開催することができました。

10月はピンクリボン運動月間で、乳がんの「早期発見・早期診断・早期治療」の大切さを伝える啓発活動として、シンボルタワーをピンク色に染めたり、ウォーキングをするなど全国各地でさまざまなイベントがおこなわれました。当院でも、乳腺外科チームとがん相談支援センターとで、松江テルサをピンクにライトアップしたり、講演会やコンサートを開くなど、毎年この運動に取り組んでいます。

今年は松江城二の丸太鼓櫓前にブースを設置。ピンクリボングッズの配布や、触診モデルに触れてもらい自己検診方法の説明などを行うことにより、乳がんの正しい知識、検診の必要性、早期発見の大切さを知っていただくことができました。

荘厳な松江城において、乳がんの必要性などを言葉にした燈籠が秋の夜に幻想的な雰囲気醸し出していました。また、スタッフの着物姿も来場者には好評でした。



# 「松江赤十字病院ホームページ」耳より情報

当院「ホームページ」には、参考になる情報が満載。今回は「外来化学療法室」を紹介します。

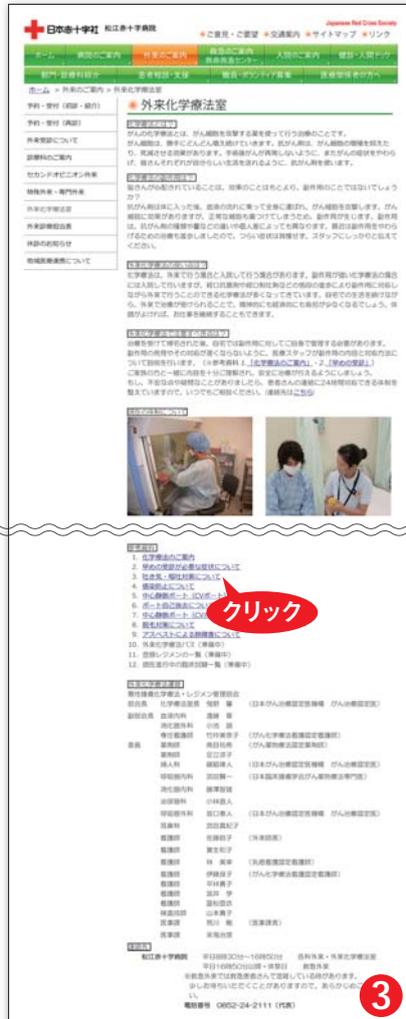
**例えば** 抗がん剤治療を受けられる患者さんが吐き気・嘔吐対策について知りたいときは…



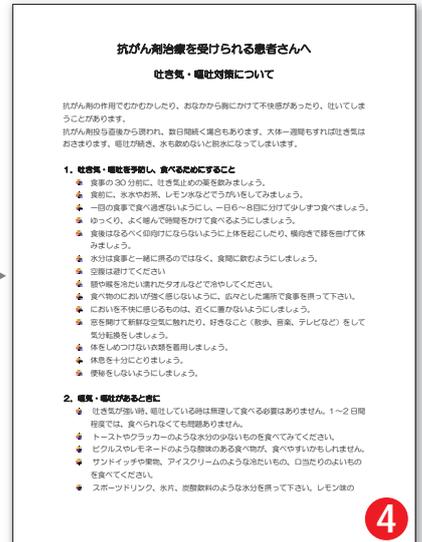
1 松江赤十字病院のトップページから「外来のご案内」をクリックします。



2 次に、「外来化学療法室」をクリックします。



3 外来化学療法室のページを下にスクロールしていき「参考資料」の「3. 吐き気・嘔吐対策について」をクリックすると…



4 吐き気・嘔吐対策についての情報を得ることができます。



研修会等のご案内

## 外来糖尿病教室

3/15 10:00~13:30 厚生棟会議室  
木 「糖尿病と他の病気の関連をさぐる」

- 糖尿病と認知症
- 食事療法を楽しむためのアドバイス
- ワンポイントアドバイス 誰にでもできる体操 Part.2
- 体験談「やまない雨はない」
- 食事に「おいしく楽しく食べるために～春の足音が聞こえます～」

糖尿病・内分泌内科 山本 公美  
管理栄養士(糖尿病療養指導士) 引野 義之  
理学療法士 渡邊 剛  
すこやか会会員 難波 進

松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地  
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

